



## PRESS RELEASE

報道関係 各位

2020年2月7日  
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会  
日本パラリンピック委員会

東京 2020 パラリンピック開幕まで 200 日  
パラリンピック日本代表選手団と応援する人々が一つに  
『TEAM PARALYMPIC JAPAN』誕生  
スローガンは“超えろ、みんなで。”  
JPC 初のチームマークを発表  
グラデーションにより生まれる様々な赤色は「多様性」を表現

日本パラリンピック委員会（Japanese Paralympic Committee、以下：JPC）は、今年 8 月 25 日（火）より開催する東京 2020 パラリンピック競技大会まで 200 日となる 2020 年 2 月 7 日（金）に「TEAM PARALYMPIC JAPAN」のチームマーク、スローガンを発表いたしました。



チームマーク

超えろ、みんなで。

スローガン

「TEAM PARALYMPIC JAPAN」は、東京 2020 パラリンピック競技大会に際し日本代表選手団と応援・サポートする人々が一つになれるチームです。このような取り組みを通じた社会的関心の高まりが、東京 2020 大会の成功、ならびに 2021 年以降のパラスポーツ振興・パラリンピックムーブメントの継続へとつながり、共生社会の実現に寄与することを目指します。そのため旗印を作り、パラリンピック日本代表の応援ムーブメントを最大化したいという想いから、チームを立ち上げました。

「TEAM」という言葉には、選手・スタッフだけでなく、競技を支えてくださる人や、応援してくださるすべての人が一つのチームとなって大会を盛り上げたいという想いを込めております。

<本件に関するお問合せ先>

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会  
企画情報部 担当：黒田、赤星 TEL：03-5939-7021 Mail：[jpsa-kikaku@jsad.or.jp](mailto:jpsa-kikaku@jsad.or.jp)

TEAM PARALYMPIC JAPAN PR 事務局（プラチナム内） 担当：北島・川畑・船越・濱村  
TEL：03-5572-6071 FAX：03-5572-6075 Mail：[TPJ2020@vectorinc.co.jp](mailto:TPJ2020@vectorinc.co.jp)



## チームマークは様々な個性が輝く自由と、それらが調和する美しさをデザイン

チームの象徴となるチームマークは、無数の赤により構成される一つの円。一人一人が自分の色を持ちながら、同時にチームでもある「TEAM PARALYMPIC JAPAN」のあり方を象徴しています。様々な個性が輝く自由と、それらが調和する美しさ、そして立ち止まることなく前へと歩み続ける強い意志をデザインしました。

## スローガン：超えろ、みんなで。

チームのスローガン「超えろ、みんなで。」は、選手の想いを示すものであり、チームをサポートし、応援してくれるすべての人たちが、同じ想いで本大会を迎えることを伝えるべく掲げた言葉です。競技・種目や障がいといったあらゆる違いや、昨日までの常識を、のしかかる重圧を、胸に秘めた目標を、競技の壁を、想像を。それぞれが背負っている、超えたいもの・超えるべきものを、選手だけでなく“みんなで”超えていこう、という想いを込めています。

## 「TEAM PARALYMPIC JAPAN」今後の展開

東京 2020 パラリンピック競技大会を通じたパラスポーツ振興・パラリンピックムーブメントの最大化に向けては、日本代表選手団の応援ムーブメントが不可欠です。今後は、日本代表選手団の登場するポスターや、ウェブサイト、映像などを通じて、JPC からの情報発信も最大限展開してまいります。また、それらポスターの各所への配布や、自治体やスポンサー企業の皆様との連携など、様々なアプローチを予定しております。

## 選手コメント

### ● 水泳 木村 敬一（きむら けいいち）選手

今まで他の競技の選手たちと共にパラリンピックを戦うということは、あまり意識していなかったのですが、今回のプロジェクトをきっかけに他競技の人たちとも高めあい、励ましあって東京 2020 パラリンピックを盛り上げていければと思っています。

私自身としては、今までとれていなかった金メダルの獲得を目標に、精一杯泳ぎたいと思っています。毎日、「昨日の自分を毎日超えていける」ように精一杯生きていかなければいけないと思っています。

### ● 卓球 岩淵 幸洋（いわぶち こうよう）選手

パラスポーツ全体を盛り上げていくために、競技の枠を超えた横のつながりを強化していけたらなと思います。パラスポーツに取り組む人は色々な人がいますし、このマークを見て、多様性にあふれるスポーツだということが伝わればいいなと思います。

僕が「超えるべきもの」として挙げているのは金メダルです。金メダルを獲るだけではなくて、金メダルを獲った先にパラスポーツを発展させていけるような、そんなパフォーマンスをしたいと思っています。



### ● 車いすテニス 国枝 慎吾（くにえだ しんご）選手

このマークには色々な赤色がありますが、パラリンピックという色々な障がいの方が集まった大会なので本当に合致すると思います。もちろん金メダルを目指していますし、日本中の注目を集める大会になると思うので、これを機にパラリンピックに一人でも多くの方が関心を持っていただけたらなと思います。

「超えたいもの」は昨日の自分です。周りの選手が日に日に強くなってきているので、いつも昨日の自分より強くなるということを掲げて練習しています。

### ● 車いすテニス 上地 結衣（かみじ ゆい）選手

このマークは、一色でまとまっているわけでもなく、区切られているわけでもなく、グラデーションになっている色合いがすごく綺麗だと思いました。

対戦相手がいる競技なので対戦相手を超えなければいけない。現在、特に自分が苦戦しているのが世界ランキング1位の選手なので、その選手を超えたいです。リオ大会では車いす日本女子として初のメダルを獲得することができましたが、嬉しさよりも悔しい気持ちや、その過程でしんどかったなと思う場面の方が多くありました。そうした気持ちを全部ひっくるめて「これまでの自分自身、全部を超えたい」と思います。

## 「TEAM PARALYMPIC JAPAN」表記

<正式名>

(日・英表記) TEAM PARALYMPIC JAPAN

(読み) チーム パラリンピック ジャパン

※注意点：英語は全て半角大文字 スペースは全て半角

<報道時 特例表記>

縦組みの記事など、正式名(上記アルファベット)での表記が困難な場合、下記の表記も認めます。

(表記) チーム パラリンピック ジャパン

※注意点：スペースは全て半角



「TEAM PARALYMPIC JAPAN」ステートメント

# 超えろ、みんなで。

あらゆる違いを。  
昨日までの常識を。  
のしかかる重圧を。  
胸に秘めた目標を。  
誰かが決めた限界を。  
競技の壁を。  
想像を。

超えたいもの。超えるべきもの。  
私たちは、それぞれの勝利を目指す。

だけど、私たちは一人ではない。

夢をともにし、挑戦をともにする仲間が  
私たちにはいるのだから。

違いを認め合い、ともに高め合う。  
パラリンピックの精神は、社会すらも変えていく。

すべてを超えたその先へ。

私たちは、未来を作る一つのチームだ。

# TEAM PARALYMPIC JAPAN